

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2006～2009
課題番号：18390195
研究課題名（和文） 全国女性看護職コホートにおける生活保健習慣の変化と健康事象に関する経時観察調査
研究課題名（英文） A nation-wide prospective cohort study of nurses for women's health
研究代表者
林 邦彦（HAYASHI KUNIHICO）
群馬大学・医学部・教授
研究者番号：80282408

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：社会医学・公衆衛生学・健康科学

キーワード：コホート研究、女性の健康、ホルモン補充療法、生活習慣、疫学研究

1. 研究計画の概要

全国の女性看護職を対象にした大規模疫学調査研究を行い（JNHS 研究：断面調査では5万人、前向きコホート研究では1万5千人を対象）、わが国の女性における生活保健習慣の実態を把握し、それらの健康への影響を経時観察調査によって調べる。

特に、女性ホルモン剤など女性固有の曝露要因の実態把握、および生殖機能関連事象や婦人科系疾患発生への影響を検討する。

2. 研究の進捗状況

(1) 断面調査（ベースライン調査）

全国の30歳以上の女性看護職を対象に、喫煙・飲酒・睡眠・食事・身体活動など生活習慣、検診やサプリメントなどの保健習慣、身長・体重・腹囲・臀囲・血圧・血清コレステロール値など身体状況、女性ホルモン剤などの医薬品使用歴、初経・避妊・不妊・妊娠・出産・閉経など生殖機能関連事象、各種疾病の既往歴や家族歴、出生時体重などの設問からなる自記式調査票による郵送調査を行った。調査対象者の募集では、日本看護協会、都道府県看護協会、日本更年期医学会の協力を得た。

平成19年度までに、全国47都道府県に在住の女性看護職有資格者49,927人から、自記式調査票の回答を得ることができた。郵送法により回収した調査票は、JNHS データ・センターにてデータ入力およびクリーニングを行い、女性ホルモン剤の利用など生活保健習慣、妊娠・出産・閉経など生殖機能関連事象を中心に、その実態について統計学的分析を行っている。

(2) 経時観察調査

ベースライン調査以降10年間継続する追跡調査への参加について、書面にて同意を得られた約15,000人の女性を対象に、前向きコホート研究を実施している。対象者には、2年に一度、生活保健習慣の変化や新たに発症した疾病について自記式調査票を送付している。また、研究の進捗や女性の健康に関する最新情報、先行研究である米国 Nurses' Health Study の報告内容などの記事を載せた JNHS ニュースレターを、対象者に毎年郵送している。

平成20年度には、6年後調査対象者5,623人、4年後調査対象者4,194人、2年後調査対象者2,322人から追跡調査票の回答を得た。また、癌および循環器疾患の新規発症を報告した対象者には、疾病発生確認の詳細調査を実施している。

3. 現在までの達成度

② おおむね順調に進展している。

（理由）

わが国最初の大規模女性コホート研究を開始することができた。医学的知識を有する対象者であるため、別途実施したバリデーション研究でも調査票回答情報の正確さが確認され、また現在までの追跡調査においても高い回答率が得られている。

断面調査では、写真付き薬剤リストを用いた女性ホルモン剤の利用歴調査など、一般住民を対象にした従来の疫学調査では得にくかった女性固有の保健医療習慣の実態について把握することができた。また、子宮内膜症に起因する不妊歴を有する女性では、閉経年齢が早まっている等の新知見を得ることができた。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 断面調査

女性ホルモン剤の使用状況など女性固有の生活保健習慣の実態について、ベースライン調査で得られた知見をまとめて、雑誌論文として報告する。

特に、妊娠・出産および閉経年齢に影響する要因の探索については、更なる統計解析をすすめて得られた知見を発表する予定である。

(2) 経時観察調査

平成 21 年度末には、平均追跡期間が約 6 年となる。これまでの追跡期間における喫煙など生活習慣の変化や閉経後ホルモン補充療法の利用などの経時変化を分析する。

また、主たる標的疾患である婦人科癌（乳癌、卵巣癌、子宮頸癌、子宮内膜癌）、その他の癌（胃癌、大腸癌、肺癌、肝癌）、循環器疾患（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、心筋梗塞、TIA、狭心症、糖尿病、高血圧）のほか、子宮内膜症や子宮筋腫といった婦人科疾患について、平均追跡期間 6 年での発生状況をまとめる。発生件数の多い疾患においては、発症リスク要因探索のための統計学的分析を行う。

また、これらの標的疾患におけるリスク要因探索では、長期間の前向き観察情報がきわめて重要である。本コホート研究の対象者全てで 10 年間の追跡観察調査を完了するには、平成 28 年度までの経時的観察が必要となる。そのため、当研究課題の研究期間以降の観察調査を継続するため、科学研究費補助金の課題申請を行う。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 1 件）

① Hayashi K, Mizunuma H, Fujita T, Suzuki S, Imazeki S, Katanoda K, Matsumura Y, Kubota T, Aso T: Design of the Japan Nurses' Health Study - A prospective occupational cohort study of women's health in Japan. *Industrial Health*, 45 (5): 679-686, 2007. 査読有

〔学会発表〕（計 7 件）

① Hayashi K: Design of the Japan Nurses' Health Study and morbidity among Japanese women. The 12th World Congress on the Menopause (Madrid), May 19-23, 2008

② 林邦彦、李廷秀、松村康弘、他：女性看護職における身体活動レベルからのエネルギー消費量の推定-Japan Nurses' Health

Study (JNHS). 第 18 回日本疫学会学術総会（東京），2008 年 1 月 25-26 日

③ Hayashi K, Fujita T, Mizunuma H, et al.: Prevalence of oral contraceptive users for birth control and their characteristics in a Japanese women cohort. The 23rd International Conference on Pharmacoepidemiology and Therapeutic Risk Management (Quebec City). Aug. 19-22, 2007

〔図書〕（計 1 件）

① 片野田耕太：Japan Nurses' Health Study (JNHS). 日本更年期医学会 編「更年期医療ガイドブック」，金原出版 p337-9, 2008

〔その他〕

研究ホームページ

<http://jnhs.umin.jp/>

（女性の生活習慣と健康に関する疫学研究: JNHS）